

令和6年度第5回一関市総合計画審議会 会議録

- 1 会議名 令和6年度第5回一関市総合計画審議会
- 2 開催日時 令和6年10月17日（木） 午前10時から正午まで
- 3 開催場所 一関保健センター 2階 栄養指導室
- 4 出席者
 - (1) 委員 阿部利彦委員、泉賢司委員、伊藤拓也委員、岩渕一司委員、大内早智子委員、加藤沙央里委員、小岩邦弘委員、西條恵美子委員、佐藤弘子委員、東海林訓委員、菅原美津代委員、菅原秀文委員、千葉真美子委員、徳谷喜久子委員、藤本千二委員、船山賢治委員、星義弘委員、吉田正弘委員
 - ※欠席者 宇津野泉委員、及川恵理子委員、小野寺忍委員、小山亜希子委員、齊藤裕美委員、佐々木承子委員、千田久美子委員、千田好記委員、吉田捺委員
 - (2) 事務局 今野薫市長公室長、小山隆之政策企画課長補佐兼政策推進係長、佐々木さやか政策企画課主任主査、渡辺苑子政策企画課主任主事、谷藤義拓政策企画課主任主事
 - (3) 一関市総合計画策定支援業務受託者 株式会社邑計画事務所 吉田基代表取締役

5 内 容

(1) 議題

ア 次期総合計画基本構想素案について

イ 現総合計画後期基本計画「主な指標」令和5年度実績について

- 6 公開、非公開の別 公開
- 7 傍聴者の数 1人（うち報道機関 1社）
- 8 小岩会長挨拶

本日は基本構想の素案について協議いただき、パブリックコメントに示す案を決定する。様々な意見が出ると思うが、素案の方向性だけでも本日の会議の中で決定したい。

また、現総合計画後期基本計画「主な指標」の令和5年度実績についての協議もあるのでよろしくお願ひしたい。

9 審議内容

(1) 次期総合計画基本構想素案について

事務局から資料No.1-1、1-2に基づき説明を行った。以下、意見等。

委員 「ひとりひとりが輝く 挑戦しつづけるまち」では、一関市に住んでいる人

たちが考えられていないようなイメージを受けるため、「ひとりひとりが輝き挑戦を続けるまち」ではどうか。一人ひとりが輝いているイメージになると思う。

委員 とても素晴らしい内容だと思う。私は音楽イベントの企画運営を行っており、周りにも同じようなことを行っている人がいるが、そういった人たちと市をうまくつないで、どのように盛り上げていこうかという発想が膨らむくらい良い内容だった。

委員 具体的な内容は今後の基本計画に入ってくると思うので、基本構想は市としての姿勢を示すものと理解している。理想が高ければ高いほど現実との差が広がるという面もあるので、基本計画で何をどうしていくか詰めていく必要がある。

また、動画であれば内容が入ってくるが、資料は一つの文章が長く形容詞がたくさん付いているので、頭に入ってこない。盛り込む内容は多いが、もう少し頭に入りやすいよう表現を見直し、なるべく短くしたい。

委員 合併して最初の10年は地域と地域がつながり、次の10年は地域が輝き、そして今回、一人ひとりが輝く。その次はまだ分からないが、ちょうど良いタイミングであり、経過を踏まえて理解できる流れだと思う。

委員 動画は良いと感じた。資料は文字数が多く、読むのに負担を感じるが、よくまとまっている。説明の中で、仕事や自己実現などの補助的な説明があり、よく理解できたが、資料にはそれがないため、注釈があっても良いと感じた。

委員 端的に示されており、見やすいと感じた。一関市の将来像は理解したが、他の市町村との違いが見えず、他の市町村との比較で選ばれる市になるという部分は弱いと感じている。

委員 一関市の魅力を次世代に変わらないまま伝えていくために、未来に向かって挑戦するという部分はとても良いと感じた。全体を見ると最後に仕事のイメージが強く残り、本当に仕事を通してまちができるのかという印象となったため、基本計画の中でしっかり練って組み立てていく必要があると感じた。

委員 将来像はとても良いと思うが、動画中「挑戦しつづける」という言葉よりも「変わり続ける」という言葉の方が多く、「挑戦」が印象に残るようにしたほうが良いと思った。

また、他の委員と同様に、基本計画をしっかり組み立てていかないと、目指すものと実際がかけ離れたものとなるおそれがあると思った。

委員 現在の総合計画の主な指標において、実績値が低い評価となっているのは農

業分野や林業分野が多いと感じているが、この農林業の地域資源を将来像に含めていけば、改善されるのではないか。現在の計画での低い評価を、次期計画でそのまま引きずらないように考えていく必要がある。

委員 将来像そのものも、市民や行政などのそれぞれの視点が将来像にまとまっていくというのも、とても良いと感じた。動画により、パブリックコメントで若い世代も含めた幅広い年代層の方から意見が寄せられることに期待したいので、周知を工夫してもらいたい。

委員 説明は分かりやすいほど良いため、表現など再度精査をしてほしい。

委員 説明で一番重要な部分は「挑戦」だと思う。変わり続けるという部分を強調し、今のままではだめ、変わらないために今変わらなければならないという思いを市民みんなが共有してこそ将来像は達成されるため、分かりやすく伝えることが大切と考える。

また、まちづくりを考え、お金をかけるのは主に行政の役割である。例えば子育て支援に強く力を入れ全国的にも注目されるまちになると、子育てしやすいまちのイメージが定着し、更に人を呼び込む。子育てをする年代に焦点を絞り、思い切ってその部分の施策に財政を投入したり、公園整備など子育て施策を優先させたり、そういったことをしても良いのではと考える。

委員 多くの人の意見を聞くほど、文字数が多くなるのは理解できる。その中で、よくまとまっていると思った。市の人口が減っていく中でいかに一関市を維持していくか、何をしていくかは本当に大切になるため、このような将来像を掲げ、具体の施策をまとめることは重要である。

委員 文章を長くせず、読みやすくというのは大切。様々な考えは今後の基本計画に反映させていけば良い。基本構想というと堅苦しくなるため、覚えやすく口にしやすいサブタイトル的なものを設定しても良いと思う。

委員 合併後最初の10年間で市の統一性を、次の10年が地域を、そして今度は個人を重視するというのは、これまでの総合計画の流れを10年ごとに断絶させず、継続性があり、とても良いと思う。基本構想は大前提であり、引き続き細かい部分を検討していくので、このとおりで良いと考える。

委員 ワークショップから考えてここまでよくまとまったという感想である。

細かい部分として、「一人ひとりが輝く」か「一人一人が輝き」かは、ニュアンスが異なり、悩ましいと感じた。

基本目標でも、今回のキーワードとしての「まちづくり」と、一般的な意味で使用しているまちづくりの違いが伝わりにくいため、表現の工夫がほしい。

ひらがなと漢字の使い分けについてもよく読めばわかるが、定義や概念が10万人の市民に共有できるかという疑問が残り、うまく伝えられる方法を引き続き考える必要がある。

会 長 微妙なニュアンスと思うが、「輝く」と「輝き」、「挑戦し続ける」と「挑戦を続ける」のどちらが良いか、委員の皆さんはどう思うか。

委 員 1文としてみると「輝き」のほうが伝わりやすいが、2つの項目として使用する前提では、「輝き」だとつながらないため「輝く」の方が良い。

委 員 「輝く」で一度区切ると、フレーズに力強さがある。

事務局 「一人ひとりが輝く」の部分は、「輝き」では、その後にある「まち」の説明と捉えられかねないことから、「輝く」と一度区切ったもの。区切ることで、一人ひとりが輝くというところをより強調したい。

「挑戦を」、「挑戦し」については、これまでの意見から「挑戦し」としたものの。

委 員 「輝き」だと次の言葉を求めてしまう。「輝く」と「挑戦しつづける」という2つの目標が分かりやすく伝わるので、「輝く」が良い。

委 員 「挑戦し」よりも「挑戦を」の方が文語的で大人の表現という印象がある。

会 長 この部分は任せてもらってもよいか。

委 員 もっと短い表現が良い。「人が輝く 挑戦つづける いちのせき」ではどうか。

委 員 「人が輝く」では客観性を感じる。「一人ひとり」だと私もあなたもといった主観性を感じるので、「一人ひとりが」が良いと思う。

会 長 資料中の説明部分を表現できる字句に検討する。パブリックコメントはこのとおりに進めることとし、細部は引き続き次回審議会で調整する。サブタイトルも次回に検討することとしたい。

(2) 現総合計画後期基本計画「主な指標」令和5年度実績について

事務局から資料No.2-1、2-2に基づき説明を行った。以下、質疑応答等。

委 員 指標No.88、1人当たりの公園面積について、令和4年度から進捗度が上がったとのことだが、これは人口減少によるものか。

事務局 令和5年度実績の数値は、人口減少により1人当たりの公園面積が増加したもの。令和5年度中に公園の整備はなかったが、令和4年度には「はぎしょうふれあい公園」を整備しており、計画的に整備を進めている。

公園や遊具に関しての要望は多く、次期総合計画前期基本計画の策定を進める中で、委員の皆様にも検討いただきたい。

委 員 指標No.13、鳥獣による農作物被害面積について、目標数値の1年当たり108.

7ヘクタールに対しての実績が1年当たり55ヘクタールで、進捗率が197.6%となるのはなぜか。

また、指標No.15、再造林率の評価の中で、「天然更新を選択している人が増えているため、再造林率が下がっている。」とある。天然更新と表現しているが、実際は放置されているだけではないか。

事務局 指標No.13は数字を下げることを目標とした指標であり、目標数値の1年当たり108.7ヘクタールを下回っているため進捗率が高くなっている。

天然更新という用語は、林業業界では一般的に使用されている用語である。育林、造林という方法もあるが、山の所有者が山にお金をかけられなくなっていること、相続の問題で自分が所有者だという自覚がない人もいる状況であることから、山の管理が難しくなっている。森林組合など、山に関わる業種の人材不足の問題もある。

皆伐してからの再造林にはかなりの費用がかかり、再造林を進める上での一番の課題であり、伐期に達している森林面積はかなりの面積に及んでいるものの、手をつけられない理由となっている。

委員 指標は分かりやすくする必要がある。

委員 山に魅力がない、高く売れないというところが問題で再造林が進まないのだと思う。

分収林についても、皆伐後に市や県に返すことが多い。返した後の方針は、市や県の考え方次第だと思う。

指標No.55、結婚祝金交付件数について、結婚したくてもできない、あるいは結婚したくないという人も多い。市の縁結び支援会員の登録者数は非常に少なく、どのようにアピールしていくかが課題である。

結婚祝金については、交付要件が厳しすぎたように思う。

県の結婚サポートセンター「i-サポ」での会員同士の成婚率は伸びており、市内だけではなく広範囲な取組が必要だと考える。

委員 何も手を加えなくても達成してしまった指標もいくつかあるように思う。

全体の状況をみると、昨年度よりも今年度のほうが実績が上がっているように見えるが、実情との乖離があるのではないか。能動的なデータで指標を定める必要がある。

委員 何も手を加えなくても達成できる指標や行政が主導していくような指標は実績が上がっているが、個人の意識に関係する指標は下がっていると感じる。

実績を上げようと思うのであれば、方向性を変えることが必要である。指標

の見直しにあつては、より現実味のあるものとすべき。

委員 資料No.2-1において、目標数値に対して進捗率が低い指標に指標No.134、市の公式Facebookのリーチ数が挙げられているが、目標数値を実績と離れた値に設定したのは達成の見込みがあつてのものか。Facebookは利用者の年代が高いという特徴があるので、Instagramなども活用していけば良いと思う。

委員 佐賀県武雄市ではお結び課という課があり、婚活イベントの中で市の魅力を伝えていくことで、成婚率を上げるだけではなく、移住率や定住率も上げている。

委員 指標No.50、市の公式ホームページのアクセス件数について、実績が上がっている要因は何か。

事務局 市民の新型コロナウイルス感染症に対する関心が高く、市の情報にも関心を持っていたことが要因の一つと考える。LINEやFacebookと連携させ、市公式ホームページに誘導するような工夫、市ホームページにAIチャットボットを導入し、必要な情報を見つけやすくなるような取組も行っている。

委員 全体としては、おおむね順調に進んでいると考える。

今後は、基本構想の一関市の将来像に繋がるよう、分野別の状況など精査していくことが一番重要である。

委員 市公式ホームページのアクセス数が多い点の一つのポイントだと思った。

面積が広いことが一関の特色であり、通信や交通網という部分はキーワードになると感じている。

委員 1人当たりの公園面積を指標にしているが、公園の整備に関する指標がない。公園が整備されているかということの方が、市民生活に影響すると思う。

また、新しい公園を整備するだけではなく、草刈りなどの整備の部分も指標としてあるとより良いと考える。

委員 指標No.132の経常収支比率と指標No.133の実質公債費比率については、どう読めば良いものか。

事務局 経常収支比率の指標は、数値が高くなるほど財政的には硬直していることを示しており、数値が低いほど進捗度が高くなる。

実質公債比率も、借金の支払いが少なければ少ないほど良いので、数値が低いほうが進捗度は高くなる。

事務局 資料No.2-1の目標数値に対して進捗率が低い指標に挙げた「指標No.134市の公式Facebookのリーチ数」について、令和5年度末の数値が誤ってい

たので訂正をお願いしたい。正しくは14万1,038件である。

10 担 当 課 市長公室政策企画課